

沖縄カトリック中学高等学校 学校通信 <h1 style="text-align: center;">野ばら</h1>	12月号
発行 沖縄カトリック中学高等学校 〒901-2215 宜野湾市真栄原3-16-1 TEL 098-897-3300 http://www.catholic-okinawa.ed.jp/ 2012年11月30日	



クリスマス 希望と恵みの時



校長 夏見隆晴

文化祭も終わり、今、学園はクリスマスの準備を始めております。わたしにとって、沖縄での文化祭は初めての経験となったのですが、立派な仕上がりになったと喜んでおります。保護者の皆さま方も、あらためてお子さんたちの才能と努力に気付かされる機会となったのではないのでしょうか。それに加えて生徒たち皆に感心したことは、準備から当日まで真面目に取り組んでいたということです。この生徒たちが取り組むクリスマス行事なら、きっと皆さま方にも喜んでもらえる、わたしも期待しております。

クリスマスとは、主イエス・キリストの誕生をお祝いするということですが、その精神はいかなるものであるのでしょうか。それは、わたしたちは皆、希望と恵みのうちに生かされてあるのだということ、せめて一年に一度は思い起こし感謝しようではないかということでしょう。残念ながらこの精神は、日本人のうちに深く浸透しているとは言えませんが、街頭で「クリスマス」が廃れないことをみれば、いつの日か真の「クリスマス」も理解される日が来るのではないかと、わたしなどは楽観しています。少なくとも本校に学んだ者は、真のクリスマスの意味を理解してくれていると考えております。

また希望(のぞみ)というのは、キリスト教が大切にしている「徳」の一つです。それは、神が希望の源泉であり、またそれを保持する力であると考えているからです。このような神の力は、イエス・キリストによってこの世にもたらされると信じ、人々はイエス・キリストの誕生を待ち望んでいたのです。そしてキリストの十字架と復活によってもたらされた神の愛に希望をおくことによって、わたしたちは苦難をものぐことができるのです。希望は、人間ことに若者にとって欠くことのできないものです。たとえその希望が一筋にしか過ぎないものであっても、希望さえあればわたしたちは生きていけるのです。

日々、生徒たちと接するなかで感じることは、どの生徒をとってみても例外なく「恵まれている」ということです。保護してくれる人がいて、夢の実現に向けて力を貸してくれているのですから、恵まれていることに間違いはないのです。でも今は、そのことを素直に表現できていないかもしれません。しかし「恵み」は確実に示されています。そしてこの恵みは、イエス・キリストによるものです。すべて恵みは、神から来ているのです。このことを思い起こす「時」こそが、クリスマスであるのです。誰もがいただいている

恵みを、形に現わして感謝する「時」、これこそクリスマスの精神であるのです。
 わたしたちのクリスマスは、幼子イエス・キリストの降誕を祝う生徒たちの聖誕劇が中心になります。同時に神の子イエス・キリストの模範に倣って、人々への奉仕も忘れないようにと、近隣の人たちを訪問して共にひと時を過ごします。メリー・クリスマス。



ロリンズ氏のように

数学科 真栄里 賢治

とても気の早い話かもしれませんが、晩年の自分はどのような風になっているか、ふと考えることがあります。どんな生活を送っているかということではなく、どんな人間になっているかということです。こんなことを考えるきっかけとなったのは、数年前東京でジャズ界の巨人ソニー・ロリンズ氏の公演を観てからでした。

ロリンズ氏はサクソ奏者で、公演時の年齢は 80 歳。彼がデビューしたのは 1950 年頃ですから、実に約 60 年も現役で活躍していることとなります。同年代にデビューしたミュージシャンは既に他界しているか一線を退いている方も多く、ロリンズ氏のように未だ現役で活動しているミュージシャンは、ジャズに限らずとも稀有な存在でしょう。その公演にて、80 歳ながら肺活量の必要なサクソという楽器を自在に操り、まるで会話をしているかのように奏で、延々とアドリブ(即興演奏)を行うロリンズ氏の姿に衝撃を受けました。そしてサクソの音色やアドリブのフレーズに、何か技術を超越したものを感じ(技術的なことは詳しくないのでなんとなくですが)、大きく心を打たれました。



他のミュージシャンとは明らかに一線を画す演奏、その姿、存在の重み、説得力。ロリンズ氏のそれは年齢を積み重ねなければ備わらないものだと思います。私はミュージシャンではないので音楽を通じてというのは無理かもしれませんが、何らかの形で晩年にはロリンズ氏のような重み、説得力のある人間になれていたなら格好良いなと思います。ではどうやったらそのような人間になれるのでしょうか？ その確実な答えなどないのですが、80 歳を迎えたロリンズ氏のインタビューから私なりに微かなヒントを見出しました。

「良い演奏をしたいから今でも毎日練習している。自分のやるべきことを一生懸命やるだけだ。」
 「(「今後の目標は？」と聞かれ)もっと上を目指すことだね。今のままでトップと言われるのはうれしいけど、もっと上を目指したい。」

このコメント自体は他の著名人、成功者も口にする有り触れたものかもしれませんが。しかし老連中の老練ロリンズ氏の言葉というところに大きな意味があると思います。半世紀以上も第一線で活躍し続けているロリンズ氏でさえも謙虚さと向上心を忘れず努力しているのだから、30代の私のような「小僧」がそれを忘れたまま年齢を重ねても、上述の重み、説得力を醸し出すようになることは決してないでしょう。逆に言うと、謙虚さと向上心を常に忘れることなくこれからもコツコツ物事を積み重ね、年齢を積み重ねていけば少しは(ある意味で)ロリンズ氏のようにになれるかもしれません。それを信じてこれからも人生を歩んでいければと思います。

それにしても 80歳で現役というのは……。理想の晩年の姿になるまでの道のりは恐ろしく果てしなさそうです。



日・曜日	行事計画
1日(土)	クリスマス会活動
5日(水)	完全下校16:20
10日(月)	第4回定期試験(高3卒認試験 ~13日(木))
12日(水)	中学1年・3年生 遠足
13日(木)	高校1年生 遠足
15日(土)	総合PUP⑦ 駿台CP6 高2修学旅行説明会 14:00~ クリスマスキャロル 17:00~
17日(月)	答案返却日 ※給食なし
19日(水)	完全下校16:20
21日(金)	午前授業 大清掃
22日(土)	クリスマスミサ 聖誕劇 生徒集会
24日(月)	振替休日 冬期講座開始~28日(金)
29日(土)	冬期休暇~2013年1月6日(日)
2013年1月7日(月)生徒集会08:05~ 授業開始	

クリスマスにどうして、プレゼントを贈るのでしょうか。

聖書の中でイエスの誕生の際に、三博士(賢人)が贈り物を捧げたのが始まりといわれています。

イエスがベツレヘムでお生まれになったとき、星の光に導かれ「占星術の学者たちが東の方から」(マタイ2:2)やってきました。



博士たちがイエスに献げた贈り物

乳香

乳香樹から採られる白色の樹脂。香水や薬品として用いられた。旧約聖書では、神によって定められた神聖な香の材料とされ(出エジプト30:34~36)、穀物の捧げ物に添えられ、祭司によって祭壇で燃やされた(レビ2:1~2)。神聖の象徴。

没薬

香の良さから珍重された非常に高価な樹脂。古来、死者の防腐処理に使用されたことから、将来の受難と復活の象徴。

黄金

太陽に結びつき、神の現存、その輝きを示す装飾として契約の櫃などの祭具に用いられる(出エジプト25:10~16)など。メシアを象徴する金属でもあり(イザヤ60:6)、王権の象徴。

でも、いちばん大切なことは、お生まれになったイエス様が神様から私たちへ送られた最高のプレゼントだということ。クリスマスは、神様が私たちをどんなに大切に思っているかをじっくり味わう日なのです。

今年のクリスマスがあなたにとって真に意味があり、イエスの深い愛を感じられるものとなりますように。